

令和3年度第2回総合教育会議 議事録

1. 開会日時 令和3年11月22日(月) 10時45分～12時00分
2. 会議場 松浦市役所 4階 第2・3委員会室
3. 出席者

松浦市長	友田吉泰	
松浦市教育委員会	教 育 長	今西誠司
松浦市教育委員会	教 育 委 員	平原章宏、前田弘子、吉住正和、氏山智美
[事務局]	教育総務課	教育次長兼 課長 小熊盛、課長補佐 西岡智子
	学校教育課	教育次長兼 課長 松本政美
	生涯学習課	課長 松永秀樹
	文化財課	課長 内野 義
4. 内容
 - (1) 市長挨拶
 - (2) 教育長挨拶
 - (3) 総合教育会議について
 - (4) 協議
 - ① 学力向上対策について
5. 傍聴人 無
6. 発言の詳細 以下のとおり(要点記録)

【発言者】	【内 容】
教育総務課長	<p>それでは、ただいまから令和3年度第2回松浦市総合教育会議を開催いたします。なお運営要綱第3条に基づきまして、本会は成立いたしました。まず初めに友田市長が挨拶いたします。</p>
市長	<p>皆さん、こんにちは。本日は、令和3年度第2回松浦市総合教育会議を開催したところ、お忙しい中、ご出席賜りありがとうございます。また、今回から、吉住委員に新たに委員として参加していただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>さて、新型コロナウイルスの影響によるコロナ禍が長く続いておりました。一昨日、県内で佐世保市の90代の方が1人、感染されたということですが、ここにきて落ち着いている状況となっております。一方で、全国的には少しずつ鎌首をもたげるような状況にあるという報道もあり、油断は出来ないと思っております。</p> <p>様々なところに影響を与えているコロナ禍ではありますが、Zoom会議などWeb会議が当たり前になったということは、一つの大きな前進であると思います。こういう危機的な状況がなければ、日本全国でいろいろな会議がWebで開催されることにはならなかったと思います。今後それが標準になっていき、短縮できるところは短縮することになっていくと思います。</p> <p>このような社会に、子どもたちが置いていかれないように、順応できる環境を作っていくということは大切な役割であります。GIGAスクール構想についても、この構想を掲げられたとき、どうやって実行するのだろうかというのが正直な思いでありました。しかし、国が臨時休業な</p>

	<p>どを行ったこともあり、予算をつけていただき、全国的に、また松浦市においても、1人1台の学習用端末の整備が進んでいるところであります。こういったものを活用しながらやらなければならないと思っています。コロナ禍が悪いことばかりではなく、こういう一面もあるということです。</p> <p>松浦市において明るい話題といえば、松浦高校の2年ぶり4回目の都大路出場。長崎県代表として12月26日の出場が決まりました。日頃から、選手たちが市役所の前などをひたむきに頑張っている姿を見ておりました。彼らの努力が結ばれて非常に良かったと思いますし、同世代の子どもたちにとっても大きな励みになったと思います。</p> <p>今日の協議事項は、学力向上対策について皆様方と意見交換をしたいと思っています。「教育のまち まつうら」を実現していく上で、子どもたちの学力を向上させることは、大切なことだと思っています。これまでも様々な対応をしてまいりましたが、どこにどのような課題があって、それを解決することでどうなるのか、そのためにはどんなことが必要なのか、皆様方のご意見を重ねたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
教育総務課長	<p>ありがとうございました。続きまして、今西教育長をお願いします。</p>
教育長	<p>教育委員を代表しまして、一言ご挨拶申し上げます。</p> <p>本日は、本年度2回目となる総合教育会議を開催していただき、誠にありがとうございます。</p> <p>さて、新型コロナウイルス感染症も、市内はもとより県内においても感染者ゼロが続いたため、市教委主催の各種行事も感染予防策に努めながら、開催ができるようになりました。</p> <p>昨日行われた市民文化祭舞台発表では、14の団体が、ゆめホールの舞台上で日頃の練習の成果を披露していました。また、国の登録有形文化財である、御厨町にある「長醫家住宅主屋」の一般公開を昨日行いましたが、市民の皆様も熱心に見学されていました。</p> <p>11月11日に開催されました県中総体駅伝競走大会では、男子、御厨中・志佐中、女子、志佐中・調川中で出場し、自己記録を更新するなど懸命な走りを見せてくれました。また、県民スポーツ祭では、陸上走り幅跳び女子で、福島森万利子さんが見事優勝されました。</p> <p>さて、本日は、「学力向上対策」をテーマに意見交換をするようになっています。学力向上は本市の大きな課題となっており、市教委として学校への支援・指導を行っていますが、改善には至っておりません。これまでの取組と課題を基に、今後の支援策を見出すことができればと考えております。有意義な時間になればと思いますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。</p>
教育総務課長	<p>それではこれから協議に移らせていただきます。この後の議会進行につきましては、市長の方でお願いしたいと思います。協議事項は「学力向上対策」です。どうぞよろしくお願いいたします。</p>

市長	<p>それでは早速議題に入らせていただきます。「学力向上対策について」でございます。会議の進行上、最初に事務局から本日の議題に関連し、それぞれ所管する取り組みなど、特に学校教育課が中心になると思えますけれども、報告をいただきます。そのことについて意見交換、さらにはそれ以外についての意見交換にも広がればと考えております。また会議の終了を12時と考えておりますので、ご協力をお願いいたします。それでは事務局から資料の説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>お手元の配付資料、横置きで一番上に「松浦市の学力向上事業について」と書いてある資料に基づき、現在の学力の状況等について報告をさせていただきます。「教育のまち まつうら」を実現するために、本課では「全国学力・学習状況調査」を軸におき、松浦市の子どもたちを全国平均正答率と同等以上にすることを最終目標にし、実現するために動いているところでございます。</p> <p>資料の2枚目をご覧ください。資料2枚目は、「市報まつうら11月号」に掲載させていただきました、今年度の松浦市の小中学校全国学力・学習状況調査の結果概要でございます。上段の左側にあるのは小学校の国語、算数。右側にあるのが、中学校の国語と数学の結果で、青色が松浦市、グレーが全国となっております。</p> <p>小学校の国語は全国平均並み、小学校の算数と中学校の国語、数学につきましては、全国平均を下回りました。ポイントで言いますと、小学校算数では約マイナス3ポイント、中学校国語でマイナス6ポイント、中学校数学でマイナス5ポイントと、全国平均と比べると下がっています。それぞれに課題がありますが、全体的に言いますと、自分の考えをしっかりと持ち、それを記述して回答する、という部分に関して問題に対応していく必要があります。中学校の国語では、自分の考えを書くところに課題があり、中学校数学は、数学的に解釈し、解決の方法を数学的に説明するというところに課題があります。</p> <p>一方で、全国学力調査と同時に、児童生徒にアンケートをとって、生活状況の調査を行っております。その結果が右側にあります。抜粋版です。松浦市の子どもは、小学校、中学校とも全国とほぼ変わらないような状況で、いい結果が出ていると思います。「学校に行くのが楽しい」「国語の勉強が好き」「算数の勉強が好き」などです。しかし、学力と直結する部分では、小学校は「家で1時間以上勉強している」割合は全国平均より高いが、中学校では「2時間以上勉強している」割合が全国平均より非常に低い。長崎県全体での課題と同じ傾向でございます。その他、「朝食を毎日食べている」「地域行事に参加している」という項目は全国平均を上回っています。特に「地域の行事に参加している」の中学校の結果などは、群を抜いて全国平均より高く、例えば御厨中学校や今福中学校等で、地域と一体となって行事に取り組んでいる結果だと思えます。</p> <p>結果の概要に記載していますが、「中学生の家庭学習時間（通塾時間も含む）については、全国平均を大きく下回る。」「中学生の家庭でのゲーム等使用ルールの遵守については、全国平均を下回る。」このあたりを改善する必要があります。今、学校では学力向上のために分かる授業作り、自分の思いや考えを書いたり伝え合ったりするところに力を入れてお</p>

<p>市長</p>	<p>り、表現する力を育てているところです。と同時に、学校では家庭学習の大切さを伝えながら改善を図ろうとしています。全国学力・学習状況調査の結果概要については以上でございます。</p> <p>では、学校教育課の方から示されました子どもたちの学力調査の結果について、委員の皆様からご意見、ご質問ございましたら、お出しただきたいと思います。</p> <p>私からですが、家で勉強している時間に通塾時間を含むということであれば、塾は少ないと思うのですが、塾に通っている子どもの割合のデータはありますか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>今、手元に資料はありませんが、松浦市の通塾率は低いです。しかし、同じ様に鹿児島県も通塾率は低いです。家庭で勉強している時間は全国平均です。長崎県全体は通塾率も低く、全国平均の勉強時間の約1時間少ないです。鹿児島県のように通塾率が低くても家庭で勉強をするような時間を確保していかなければならない。なぜ鹿児島県が家庭で勉強できているか分からないのですが、何かあるんですね。</p>
<p>市長</p>	<p>鹿児島県は、例えば薩摩藩の頃からの教育があるのでしょうかね。伝統が地域性としてあるのですかね。そういうものが DNA みたいにずっと繋がっていくのでしょうかね。皆様の方からどうぞ。</p>
<p>平原委員</p>	<p>小学校も中学校も「国語の勉強が好き」という項目は、全国平均を上回っていますよね。もっと子どもたちの学力が向上する可能性があるんじゃないかな、頼もしいな、楽しみだなと思いました。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>ありがとうございます。小学校の結果は全国平均並みでした。以前は、中学校の国語について松浦市は高かったんです。ずっと高かったんですが、ここに来て下がりました。課題は分かっております。例えば条件作文、自分の考えを記載する記述式問題が出来ていない。これは、回答に慣れてない可能性がある。中学校の中間テスト、期末テストに記述させるような問題を取り入れるように取り組みます。この結果が反映されるのは来年、再来年となります。今年度は問題に慣れてないという部分があったと思います。</p>
<p>前田委員</p>	<p>小学生、中学生とも「国語の勉強が好き」という割合が多い結果は、本当にありがたいことだなと思います。国語の記述ですが、普段の授業中に何字で書きましようとか、何字で抜き出しましようとかの問題を出したり、生活の中で常に考えさせる事が大事だと思います。頭の中に考えを閃かせることができれば、さあ、書きましようと言ったときに、用紙を前に書けるようになってくるのではないかと思います。そういう訓練を授業中、それから普段の生活でもさせていく。授業中は時間が限られているので、授業中にできる子もいますが、授業中にできない場合は、課題に出して、それを次の授業に生かしていく。授業の前とか授業中、全員がやっているか確認しながらやっていく。GIGA スクールが入って</p>

	<p>きたら、動かしやすくなると思います。小学校では、要約することに課題があると書いてあります。小学校ではその筆者が何を言わんとするかをきちんと押さえていく必要があります。小学校で授業がしっかりとすると、中学校でも変わってくるので、小学校では、全員が分かるというようになればありがたいなと思います。そのためには、特別支援教育も必要だし、GIGA スクールもいいチャンスなので、これを物にして、学力が上がっていくようになればいいなと思います。GIGA スクール支援員も4校に1名は少ないと思います。もしできればフォローする方が2校に1名ほどいればと思います。</p>
市長	<p>今のご意見に何かありませんか。</p>
学校教育課長	<p>GIGA スクールを使った授業改善を進めております。記述の問題とか、自分の考えを持つということについて、例えばある課題に対して、グループ学習をしても発言しない子は、そのまま一時間、発言せず済んでしまうんですね。そういうことをさせないように、タブレットを使って、課題に対して、自分の考えを附箋に書いて貼っていく。自分の考えを公表する場を、タブレットを寄せ集めて同時進行でできるような授業改善を進めています。これは先ほど言われた、スクールサポーターの方の支援をいただきながらやっていて、それが少しずつ広がってきています。同時に、自分の考えを全体に広げることについて、デジタル化されていますので、全体ですぐ共有できます。ですから、達成感とか勉強した甲斐があるという生徒が増えてきています。ただ、あくまでの学習用のノートの一つのツールとしての使い方ですから、それだけでやっていくということではなくて、教師が意図的にタブレットを使いこなすことが大事だと思っています。今後も研鑽を重ねてまいります。</p>
市長	<p>この調査結果を踏まえた授業改善というのがございますので、その説明を聞いた上でまた議論が深められるかと思っています。説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>それでは先ほどの「全国学力・学習状況調査」の結果における課題をご報告させていただきます。今、授業改善で一番課題としているのは、書くという部分でございます。自分の考えを持って書くという部分です。課題に対して自分で予想を立て、理由や根拠を述べるという部分について、今まではどちらかというところと発表させて終わりだったけれども、そこに必ず書くという部分を入れて、発表させる授業改善を行っています。これを私達はねらいに即した書く活動の充実と呼んでいます。</p> <p>同時に、中間テスト、期末テスト等の穴埋め問題を減らして、記述して書かせる回答に切り替えていきます。全国学力・学習状況調査にも対応できるような授業改善をしていきます。仮に中間、期末考査で記述式の問題が取れないのであれば、1時間、1時間の授業の中で、取り組んでいく。そのために、個別最適な学習として、又、記録としても残るタブレットを使用していくことが有効であると思います。</p> <p>もう一つは、授業する側も、めあて学習をしています。この子が何を分かっている、何が分からなかったかが、はっきり分からないないと</p>

いけないのです。今までは、基本的に1人1冊のノートの中で完結させていました。しかし、思考をしていく過程で、どこにつまずいたかというのが全くみえない。それが少しでもわかるように、タブレットを活用して、子どものつまずきがどこにあるのか。その検証結果であるテストの結果がリンクしているのであれば、そこに対して指導する。これが松浦市の学力調査で、データ化されたものが個人的に出ますので、そこに対して、指導ができる体制にしていきます。

今までは、うまく活用が出来ていなかったところがあるかなと思います。今回、このデジタル化が進んでまいりましたので、より個別に、調査を生かしていきたい。最終的に授業自体で、どんなふうにならっていくかという、先生がファシリテーター的な役割になって、子ども自身はその個別最適な学習素材であるタブレットを用いて、自分のスピードで学習したり、必要に応じて個人間で情報や意見を共有して学んでいく。最終的にはそういう方向に行くと思います。一つの教室ではなく、よその学校や世界の学校と繋がっていくような時代となる。それがGIGAスクール構想の最終形だろうと思います。これに乗り遅れないように、松浦市として取り組んでいかなければならない。

先ほどの資料に「授業づくり研修会の開催」として①から⑤のように教職員の資質向上のための研修会を組んでおります。この中にはタブレット関係を十分に入れた研修が未だ組み込まれていません。

「学力調査の実施検証」で、今年から小学校一年生から全学年予算化して、全学年で国語、算数を行いました。これで個別最適なフォローアップもしていきたい。

また志佐中学校と御厨小学校がそれぞれ研究指定校として授業公開をしています。先般の志佐中学校の研究発表会で授業公開した後、先生方同士の研究協議はタブレットを用いて行いました。先生方自身もタブレットを用いた研修ができ、新たな位置づけで研究発表ができました。御厨小学校は今週です。

右側ですが、「教師用のデジタル教科書の整備」で授業が効率化され、その生まれた時間によって、学級の中に2、3人いると言われる配慮を要する子どもたちへの個別指導の時間に、少し余裕が出来てきたと思います。特別支援教育支援員の配置もあって、特別支援の配慮を要する子どもへの対応が少しずつできるようになってきました。しかし、先般、松浦市教育支援委員会があって、対象となる子どもが130名を超えておりました。数が増えております。先生方が、そのことによって学級経営がままならないという状況を聞いております。学級経営と学力は相関関係にありますので、ここら辺もしっかり手を入れながら、最終的には学力向上を支える環境づくりを進めていきます。

当然ながら、GIGAスクール構想は、最先端なので、しっかり進めていきたい。先生方も一生懸命やっただいておりますし、教育長も今年は、学力調査の結果を見て、子どもたちのために授業を変えていくというメッセージを出していただきました。印象としては、各学校の授業が変わってきている、子どもたちが主役となる授業に変わってきていると感じています。課題も含めて、先生たちが本気になっておりますので、市教委、行政の方でも力になりたいと思います。

市長	資料3枚目の「県立中、市外中学校への進学者編」で、結果的に点数が取れる子が県立中や市外中学校へ通っていますよね。その影響が中学校の学力調査結果にどうなったかということですが、説明していただいていいですか。
学校教育課長	はい。3枚目になります。今年度の小学6年生と中学校3年生の結果を上2つに載せて、一番下にシミュレーションとして県立中学校、市外中学校へ進学した者がもしも市内の中学校へ進学し、全国学力調査で100点を取った場合のシミュレーションをしました。中学校3年生を比較しますと、上下で見ていただくと分かるのですが、例えば国語であれば、令和3年度の現状ではマイナス6.6だったところが、市外・県外の子たちが、市内に進学して100点を取ったらマイナス5.5、約1点上がります。数学であれば、令和元年度マイナス5.8、令和3年度マイナス5.2が、マイナス4.0、マイナス3.9、約1点から1.5点ぐらい上昇する。英語に関しては2ポイント上がり、影響があります。体制に影響があるか、全国平均を超えることにはなりません、確実にポイントは上がります。目には見えませんが、子どもたちが学級の中に残ることによって、その子をライバルとか目標とかにして、周りの子どもも頑張るといふ土壌が生まれるだろう。その辺を勘案しますと、もしかするともっと点数は上がるという可能性はゼロではない。プラスで働くと思います。
市長	そういったことも踏まえて今後の授業改善の取組について、どうでしょうか。
教育長	<p>授業改善は、授業を分かりやすくすることですが、2つの要素があります。</p> <p>一つは、私達も授業を受けてきましたが、あの先生の授業は分かりやすいとか、この先生は分かりにくいとか、分かりやすく説明できる、指導できるという面があります。</p> <p>もう一つは、昔は、学力というのは計算ができる人とか地理の地名をたくさん知っているとかで、点数が取れていました。しかし、今はそれでは取れないんです。実際に学力調査の問題を見てもらったら分かるんですけども、問題を、数学、算数でも読みこなして問われていることを把握するのにまず力がある。問われていることをしっかり頭に入れ、それをもとにしっかり考え、それを何文字以内で表現するとか、昔と全然、違うんです。だから、その力をつけないと点数が取れないんです。その内容に求められている、その内容に合った授業をしなければならない。</p> <p>この2点があるんです。確かに我々が社会に出て、漢字は調べれば分かる。それよりも、いかに考えるか、いかに自分の言葉として考えて、私の言葉で言えるか、正にこれから生きていくために必要なことはそれですよ。ですから、そういうふうな授業の仕組みはどうしたらよいかということが課題です。正直なところ、担任の先生の力が上がれば学力調査が10点上がります。ですから、その力をつけるために、研修会を催しています。いい授業を見るということですよ。素晴らしい先生の授業</p>

	<p>をみる。また、先生方が授業の準備をする時間も必要ですが、働き方改革で早く帰らなければいけないんです。それで、ゆとりをもたせるための方策も必要です。後、担任の先生が手助けしてもらっています。例えば、特別支援員を松浦市は手厚く配置してもらっていて、手のかかる子は支援員にみてもらって、先生は全体に授業を行う。そういう外部の力も必要です。最後、地元出身者が必要だと思うんですね。他市町から来た人は、3年ないし6年で戻ってしまうんです。自分の出身地は長く居れますし、何よりも思いが強いんですね。そういったものを総合的に改善しながら、初めて授業改善ができると思います。</p>
市長	<p>今、教育長の発言がありました。また、学力・学習状況調査の結果を踏まえて、教育授業の改善についての説明がありました。どうぞ皆様の方から、ご質問、ご意見があればお願いします。</p>
氏山委員	<p>話を聞いていて思ったのですが、読み取る力とか自分の考えとかを持つつというのは、本に繋がると思います。多くの本に触れると、自分の湧き出てくる感情などがあるので、読書が大切だなと思いました。また、家庭学習のことですが、私も学校が終わってからの習い事が多いのかなと反省するところではあります。学校から帰って少しは勉強しますが、習い事などで宿題をする時間が9時近くになったりしています。また、今の子どもたちはメディアの時間をどう削るか、隙間時間・余暇時間を学習時間に持っていける力、そういう自分でコントロールする力をつけさせなければいけないと思います。ただ勉強しなさいと言っても勉強する子はいないと思うので、その力をつけさせることができればいいなと思います。</p>
市長	<p>そうですね。はいどうぞ。</p>
前田委員	<p>家庭学習の時間の確保ですが、私が小学校5年生のとき、生活日誌をつけさせられていました。嫌だったのですが、学校から帰ってからの時間をどう使うか、自分が家でどう過ごすかを考えさせられました。それが中学校にも繋がっていったという経験があります。40人学級で40人が全部きちんとするかというところがそうはならないと思いますが、せめて何人かが、家庭での時間の使い方を学校の帰りの会などで考えていけば、習慣がついていくのではないかと思います。GIGAスクールの中で、朝の会や帰りの会で使っていて考えさせる。これは将来社会人になったときに、仕事と家庭での時間の使い方に繋がり、自分でプランニングするという力になっていくと思います。そういう取組を各学校されていると思うのですが、しっかり押さえていくと少しでも家庭学習時間は増えていくのではないかと思います。メディアの話がありましたが、ゲームする時間や習い事についても考えていくかと思っています。</p>
市長	<p>習い事というと吉住さん、どうでしょうか。</p>
吉住委員	<p>私も陸上指導では、本当にきついことをさせるんです。きついことさ</p>

<p>市長</p>	<p>せて家に帰って勉強しろというのは、酷かなと思うんです。それでも一番大切なことは、勉強だよと陸上を指導しながら言っています。眠たくなる前に少しでも勉強をなさい。ご飯食べて風呂入って、またできれば勉強する。それでも勉強に追いつけなければ、私が何を指導しているのかと言われるんだからね、と。今の子は、時間を有意義に使えないんです。昨日、父がレンコン堀りに行くというので、姪に土で遊ぶことは良いことだから行きなさい、と言ったのですが、面白くない、ゲームがしたいと言いました。たった1時間のことなのに、悲しくて、当分の間ゲーム禁止だねって言ったところです。</p> <p>そうですね。先ほど、学校教育課長が子どもの勉強を理解していくプロセスが、GIGAスクールの供給したタブレットで分かるとおっしゃっていました。そういう意味では、タブレットに小さいころから慣れている子どもたちは、家に帰って隙間時間に、まずタブレットを開いて、勉強をするということに上手に繋がっていくと思うんです。私たちの頃は、カバンから教科書とノートを出して、宿題としてもらったプリントなどを出さないといけなかった。それがタブレットに変わることで、子どもたちの向き合う姿勢も変わると思うし、その中に出されている課題が、子どもたちが理解して進んでいくような形になっていけば、子どもたちが向き合う姿勢が変わると思うんですよね。この辺り、我々が経験してないのでなんとも言えないんですけど、それが目指すべき効果としてあるからこそ、GIGAスクールがこれだけ強力に進められていると思う。</p> <p>それと、一つの課題を理解して、解決策を生み出していくというのは、まさに今、松浦市、松浦高校などと一緒になってやっている課題解決型教育ですよね。これをいろんな場面で取り入れる。学校だけじゃなく、いろんな場面で取り入れていくことが大事だと思います。松浦市もここ数年、地域未来会議をしていますけど、大人の参加が当たり前みたいになっていますが、開催の時間を考えて、中学生、高校生と一緒に大人と子どもではなく、同じ市民として語り合う、そういう場を作っていくこと。課題を解決する自分の考えを言う。こういった場作りになると思っています。そこに持っていくためには、いろんな努力が必要なんですけど、学校教育、学力の向上と、結びついているんだろうなと思う。この辺が、本当に我々が子どもたちと一緒にやって、やらなければいけないんじゃないかなと思います。</p> <p>先進的な、福岡県の福津市などは、複数の学校が一緒になって、子どもたちと地域の大人と一緒にあって対話をしていく。そういう場を設けておられるんですね。まさに課題を解決するために、自分で考えて発表する。それを周りの大人も子どもの意見として聞いてはいけない。同じ市民として聞く。そうすると、大人が考えさせることがたくさんあるとおっしゃっています。こういう環境作りは本当に大切だなと思います。</p> <p>そういった視点も含めて皆様の方からありませんか。はいどうぞ。</p>
<p>平原委員</p>	<p>はい。GIGAスクール構想によって、昔の教育のような寺子屋式、授業が分かっている子、分かっている子が分からず進んでいった</p>

	<p>ものが、タブレットにより、リアルタイムでこの子が理解していないと分かるようになってきている。そのように教育が変わってきているから、学校現場でも、それに対応できるように変わっていかないといけない。そのためには、今、タブレットが全部揃うので、学校の先生たちのスキルアップをするために支援員を配置していく必要があると思う。教育長がおっしゃった担任で10点違うよと。そういう先生が出てきたり、また、松浦って学校って面白いよねと思ったり、松浦市は環境が整っているから、松浦市を主任地にしたいなというそういう人さえも出てくる気がします。やるなら今だと思います。</p>
市長	<p>どうぞ、前田委員。</p>
前田委員	<p>私も平原委員と同じ様に、今、この機会を逃さずに先生たちのスキルアップと子どもたちのスキルアップを図ることが大事だと思います。先生たちも、分からないことを子どもたちに聞いたりして切磋琢磨し、タブレットに慣れて授業作りに生かすことが大事だと思います。そのため、平原委員がおっしゃったように、支援員が配置できればありがたいなと思います。一方、基本的に人間教育ですので、先生は先生らしく人間として声掛けすることも大事です。子どもにはたくさん声掛けしてもらい、声かけられて子どもは嬉しかったとってまた勉強したりしますので、両方が必要だと思います。</p> <p>もう一つは、分からない子がいると思いますので、勤務内のどこかで学習する時間が取れないかなと思います。子どもは、分かるのに時間がかかる子もいれば、早い子もいます。その差をどうにかできればと思います。</p> <p>私は、福島で11年くらい教員をしていました。その中で成績上位だった生徒が社会に出てから、つまずいて、どうしようもなくなって自死した子が何人かいます。地域や学校では良くても、外に出たときに乗り越える力、学びながら向上しようという力をつけていかないといけないなと思います。現場を離れてから、子どもが学ぶ力をつけることは人生を左右することになると思います。</p>
市長	<p>他に皆さんの方からございませんか。</p> <p>それではGIGAスクールのお話も出ましたので、「GIGAスクール構想の実現に向けた整備状況」の説明を受けて、先ほどの支援員の問題などの議論が進められるかと思っています。</p>
教育総務課長	<p>資料「GIGAスクール構想の実現に向けた整備状況」を説明いたします。近年の決算を抜き出しています。令和2年度はコロナの関係もございまして、学習者用端末の購入を、ほとんど国の予算を使いまして導入することができております。令和2年度に小中学校の3分の2、令和3年度に残りの3分の1、金額は内訳のとおり、それぞれ7,200万、4,100万円でございます。今年度のタブレット契約は終わっておりまして、納期は来年の1月末ですが、12月9日ぐらいにはすべての学校に納品できるかと思っています。その後は、学校での持ち帰りが出来</p>

<p>学校教育課長</p>	<p> と思います。 また、それに伴う充電保管庫の整備。タブレットをそれぞれ学校で充電するための箱を設置しました。全て一緒に充電してしまうとブレーカーが飛ぶので、時間を分けて、箱の中に入れておけば充電するというものです。その他、昨年、一昨年は指導者用のデジタル教科書を購入して、昨年は算数、数学、今年は英語、理科、中学校社会です。 それから、その他というところで、内容は通信料です。LTEという電話回線を使ったタブレットを購入しておりまして、5Gという制限がございます。他市のようなWi-Fiを一度にみんなが繋げると、繋がらないという現象は起きておりませんが、5Gという制限がございます。1台あたりの端末で1月約200円となっております。本来であればその10倍くらいしますが、各種割引が入っておりまして、200円程度の約2,000台、年間の費用を記載しております。 総額で令和2年度は約1億500万円程度の決算となっております。令和3年度は約5,800万円程度です。令和4年度は予算計上前で記載をしておりますけれども、学習用端末は整備できました。今後は、統合型校務支援システムと指導者用デジタル教科書の国語と中学校社会が必要に応じて整備されるのかなと思っております。整備の状況としては以上です。 お手元の配付資料「GIGAスクール構想に係る松浦市の運用ビジョン」をご覧ください。今、ハードについては話があったとおりですが、今年度どのような方向に進んでいるのかという事について概略を説明いたします。 1枚目は、今年度、この部分についてしっかりやっていきたいと思いますのを、1枚のポンチ絵にまとめたところです。今のところ順調にしっかり抑えてできていると思います。今後ですが、一番右側の下にあります「ICT活用研修会及び公開授業等」について、来年度に向けて進めていく形になると思います。特に授業の中でどのような活用の仕方があるのかというのは、次年度に向けての方策になると思います。 実際に今までどんなことをやっていたのかというと、2枚目をご覧ください。最初、一番課題になったのは、臨時休校になった場合どうするかということからでした。今のところ、各家庭に一旦持ち帰って、Wi-Fiがない環境の中でも、うちはLTEを採用していますので、端末に制限されなくて、学校と繋がるかどうかのテストはできています。 その中で、朝「おはよう」「元気」とかの確認を取っている学校は既にあります。また、実際に学校からタブレットを持ち帰ってタブレットドリルを使って、自分で勉強をしている子もおります。それから家庭に持ち帰ってアンケートを回答するという事も既に実施しています。青島ではフェリーが欠航するので、遠隔授業とまではいかないんですけども、子どもに、今日はこれとこれをやりなさいというやり方で繋いでいます。 仮に臨時休校になった場合には、1日1時間ぐらいの20日間分を5Gで設定しているんですけども、その程度を家庭とオンラインで繋いで出来るような体制は出来ています。 </p>
---------------	--

	<p>しかし、1日6時間授業をずっと受けるなんてことは小中学生には到底不可能です。1回当たり15分程度続けるのが適切な時間かなと思います。それを4回ぐらいに分けて、20日で5Gの想定です。</p> <p>3枚目「一人一台端末整備による活用方法」についてですが、最終的には先ほど言った授業改善に繋げていきます。</p> <p>例えば「一斉学習」では、「これまで発表できなかった児童、自分の考えを伝えることができなかった児童が端末を通して、自分の考えを開示することができる。」とか、「挙手で行われてきた学級会での採決」なども、挙手が恥ずかしいとかに左右されずタブレットで回答できるとか、「文書作成ソフトで文章を書き、コメント機能等を用いて助言しあう。」。最終的には「分析した情報を、プレゼンテーションを利用して分かりやすく提示できる。」この形態が取れるようになれば、将来大人になっても十分通用する人間になると思います。</p> <p>「個別学習」についても、記載のとおりですが、情報収集を整理して活用できる力が付けばと思います。この前、星鹿小では体育の授業で、タブレットで、マット運動をしている様子を子ども同士撮り合って、見せることをやっていました。すごいなと思いました。</p> <p>右側の「グループ学習」の中に、図工とか家庭科の作品鑑賞や先ほど言ったマット運動の体育実技の端末活用を既にやっているという状況でございます。先生方も積極的に使って、今、どういうことができるかを検証しながら、前に前に進んでいます。デジタルを使いこなせる資質能力を子どもたちに身に着ける環境がスタートしているということです。</p>
市長	<p>皆さん方から、今ご説明があった点について、ご質問、ご意見ありませんか。</p> <p>先ほどの平原委員、前田委員から今がチャンスじゃないかという発言がありました。もちろんその通りだと思うんですけどね。基盤は揃ったのに、ソフトとして使えるかどうかというところが大きな課題ですよ。この端末を使って、どんなふうに展開していくかという説明がありましたが、やはり皆さんが共有して進めていくということが一番大事だと思うんです。それで、教職員の先生方との方針の共有、この辺りはどのような取り組みがなされているんですか。</p>
学校教育課長	<p>管理職に情報共有を市教委から出していて、各学校は管理職指導で進めていくような体制になっています。また先生方はこういうことをやりたい、こういうことはできないのかということ、今、GIGAスクールサポーターに相談して、実現して良かった、悪かったを含め、どんどん使いこなすような環境にしています。最終的には子どもたちが、資料3枚目にあるようなことにチャレンジして、「児童の主体的・対話的で深い学びに繋がる授業改善」に生かしてほしいと思います。しかし、温度差もあり、そこが一番の課題だと思います。</p>
市長	<p>多分、私達と同世代ぐらいの方が、校長先生、管理職でいらっしゃるんで、なんとなく分かるんですけど、得意な人もいれば、そうでもない</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>人もまだまだいる世代ですよ。その辺がどう浸透していくのかなというのがありますよね。どこか先駆的にすごいことをやって、これはすごいいいよねって、みんながどう思わせるかですよ。そのために、得意な人が積極的にやってもらうことが、一番大事なかなと思います。こんなこともできるんだよっていうことを各学校に広めていけば、全体の底上げに繋がる。全体を同じレベルで上げていこうとすると大変な労力だけど、得意な分野の方々に進めてもらうと、みんながそれに倣って行って、上がって行くということがあると思うんです。今市内の状況で温度差があるという話ですけど、やっぱり先駆的に進んでいけそうなところもあるという認識でよろしいですか。</p> <p>学校に配置されている教職員の得意、不得意の部分でいうと、得意な先生がいる学校が進んでいます。今ちょうど大量退職、大量採用の時代で、50代と20代が多い職員構成になっています。20代が頑張っている学校はどんどん進んでいます。市長がおっしゃる通りです。ただこの前、志佐中学校の研究発表会があったように、授業を見た後の研究協議会もタブレットでやるというような体制をとったりして、少しずつですがタブレットを先生自身も使いこなす、自らのために使うということを行っておりますので、進んでいくことになるでしょう。子どもたちの方が、先生たちよりも数段早く習得していきます。それは先生方がおっしゃっているのも、間違いないです。とにかく子どもに触らせる方向に行くと思います。そのほか、県内でもモデル校が3校指定されておりますので、そこで学びをしていただく予定にしております。</p>
<p>前田委員</p>	<p>氏山委員さんから以前聞いたのですが、御厨中学校の中で、Web会議で委員会活動をやっているということで、学級会の中で文化委員会など他学年も繋げられるし、Web会議を校外だけではなくて校内で活用するのもいいんじゃないかなあと思って聞いておりました。これも1つの慣れと勉強になるかなと思いました。</p>
<p>氏山委員</p>	<p>集会ですね。例えば、コロナが流行っていた時期は、体育館に全校生徒が集まるのが出来ない時期があって、その時は、平和集会であればその係の子たちだけが体育館にいる。それを他の子どもたちは、電子黒板の映像を見て、体育館の様子を見ることができるといった状況でした。催しものは体育館であっているんだけど、子どもたちは教室で見ているというような時期がありました。全校的に集まれないときにですね。</p>
<p>市長</p>	<p>そうは言っても結果的にコロナがあったから、そういうのが進んだのですよね。今、ものすごく過渡期で学校が変わってきているところですよ。本来ならモデルの学校があって、その学校でしっかり揉んで、こういったところに効果があるから、こんなふうに学びましようとなるところですが。その後、全ての学校、全ての生徒に端末が行けば、一番理想的ですけども、このコロナで今のうちにやれということで、突然来たものですから、まだ受け入れる環境も不十分な中に、機器だけ来たっていうところもあると思うんですよ。でも、機器があるから使えるって</p>

	<p>いうがあるので、前田委員もおっしゃっていますが、まず使わせてみる、やってみる。何もなければやりたくてもやれないわけですから、やれるっていうチャンスがあるので、そこは本当に大切ですよ。</p>
<p>平原委員</p>	<p>市長が言われたように、全部一緒にというのは無理だから、例えば、令和4年度、小学校1校、中学校1校、GIGA スクール構想推進校・指定校の手を挙げさせ、そこには支援員、専任のスタッフを配置する。そういう方法であれば、高額ではないし、進み出せば、よその学校も何かやろうとならないでしょうか。市長のお話を伺って推進校などの取り組みがあってもいいのかなと思いました。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p>
<p>教育長</p>	<p>1点よろしいでしょうか。正直私の想像以上に、タブレットを有効活用しています。訪問して行ったら、小学生もしっかり使っているんですよ。私の近所の子も一生懸命使っていて、効果があるんだなと思いました。それは、先生方からサポーターの方が専門的な知識を持っていて、聞きやすいし、具体的に指導してくださるからというのが、生の声としてありました。多分それが一番大きい、今の使用頻度になっていると感じます。ただどうしてもお金が要るんです。他のものを少なくしてもしないといけないのかなと思っているんです。</p>
<p>平原委員</p>	<p>お金かけていらっしゃるんですよ。環境は整っていますから、どういうふうに進めていきましょうということになりますよね。市長はやる気満々なので、教育委員会の方から積極的に支援してほしいところを示さなければいけないと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>総合型公務支援システムはG I G A スクールに入れるんですかね。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>少し違うかもしれません。</p>
<p>市長</p>	<p>これは長崎県市長会でも議論があっているんですよ。結果的には松浦市と他1市がまだ入っていないことですよね。これは先生方の負担になるので、先生方が移動されても同じシステムであれば使えるということで、何とかしないとイケない。しかし、ここにも結果的にランニングコストがかかってきますので、重い現実があります。ただやはり、せっかく端末が来たので、端末を使って子どもたちの学力向上を図っていくというのは、大切なことだなと思っています。</p> <p>今、いろいろお話聞かせていただいたことを参考に、近々また予算査定をしますので、どのように実現していくかですね。</p> <p>せっかく導入したタブレットが活用されないっていうことがあってはなりませんし、せっかくあるわけだから、それによって子どもたちが勉強に向き合う姿勢が変わってきたなと思えるように。教育長のお話しにもありましたが、子どもたちが良い方に変わっていけばと思います。そして何とか来年度以降の学習状況調査などで、成果が出るような対応</p>

<p>教育総務課長</p>	<p>に繋げていきたいなと思います。 十分議論が深められたかどうかはわかりませんが、時間が参りました。 その他、何か事務局からございますか。</p> <p>はい。例年、総合教育会議は2回ないし3回開催されています。昨年は2月25日に3回目が開かれました。その前の年は2回でした。そういう状況でございますので、次回開催は事務局の方から報告します。</p>
<p>市長</p>	<p>1月末に選挙がありますので、2月の日程については私が決めておくべきではないと思っております。選挙後の2月に調整して連絡するということにならざるを得ないのかなと思います。 前後しましたが、委員の皆様方から何かございますか。よろしゅうございますか。 それでは、以上をもって、令和3年度第2回総合教育会議を閉じさせていただきます。本日はありがとうございました。</p>

松浦市の学力向上事業について

令和3年 11月 松浦市教育委員会

「教育のまち まつうら」の実現

第2期松浦市教育振興基本計画

全国学力学習状況調査 全国平均正答率と同等以上（令和6年度）

授業づくり研修会の開催

- ① 研究主任研修会
年間3回（6/10/2月）
- ② 教科指導研修会
R3.9.29 算数・数学
参加者 17名
- ③ 学びを支える授業づくり
R3.7.29 学級経営等
参加者 29名
- ④ 英語教育推進
R3.12.17 小中連携
- ⑤ 総合的な学習授業づくり
R3.8.30

学力調査の実施・検証

- ① 松浦市学力調査
本市児童の学力の向上を図るため、実態把握を行い授業改善につなげる

 - ・ 小学校（R3年度 858千円）
国算×6学年
 - ・ 中学校（R3年度 721千円）
国社算理英×2学年

松浦市研究指定校推進事業

- ① 志佐中学校（R3年度200千円）
R2～R4年度（3カ年）
R3.11/4 中間発表会
参加者 38名
社会・数学
- ② 御厨小学校（R3年度200千円）
R2～R3年度（2カ年）
R3.11/26 本発表
算数

学力向上を支える環境づくり

- ① デジタル教科書の整備
 - ・ 小学校
算数（R2年度 3,663千円）
理科（R3年度 2,176千円）
 - ・ 中学校
数学（R2年度 1,540千円）
社会（R3年度 1,339千円）
理科（R3年度 1,205千円）
英語（R3年度 1,678千円）
- ② 教育支援員の配置
市内小中学校12校22名
（R3年度 23,370千円）
- ③ GIGAスクール構想の実現

県・市教育委員会による学校訪問指導

- ・ 学校経営及び学力向上についての校長への指導
- ・ 授業者への1対1による直接指導（A訪問） 3校/年
- ・ 市内全学級の授業参観と校内環境等の現認及び指導（B訪問）

支持的風土の醸成・安全安心してお互いに認め合う学級づくり

「令和3年度全国学力

今年5月27日、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に「令和3年度全国学力・学習状況調査」が実施されました。8月31日に調査結果が公表されましたので、結果をもとに松浦市の子どもたちの学力と学習状況の現状及び課題についてお知らせします。

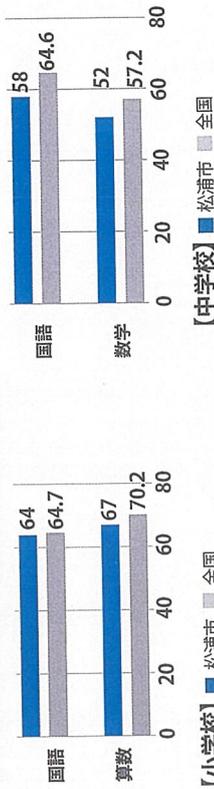
①調査内容
【学力調査】国語、算数・数学 【児童生徒質問紙調査】学習・生活に関するアンケート

②調査目的
この調査は、小学校では第5学年まで、中学校では第2学年までに十分に身に付け、活用できるようにしておくべき内容が課題されています。調査の対象学年だけでなく、全学年を通じた学習の成果と課題を検証し、学力の向上に向け、学習の改善・充実を図ります。

③調査結果

学力調査結果（全国と本市の平均正答率）

市の数値については、整数で公表されています。



【結果の概要】松浦っ子は…

- 小学校国語は、全国平均並み。
- ▼小学校算数、中学校国語・数学は、全国平均を下回る。

【小学校：国語】

- 語句の使い方を理解し、話や文章の中で正しく使うことができている。
- ▼文章の中心となる語や文を見つけ、要約することに課題があります。

【小学校：算数】

- 速さと道のりをもとに時間を求めること、グラフの数値を読み取ることができています。
- ▼図形の面積について、基本的な求め方や、それを活用して複数の図形の組み合わせさせた求め方を説明することに課題があります。

○語句の理解、グラフの読み取りなど、基本的な知識・技能はある。

- ▼複数の情報を比較し、必要な情報を読み取って説明することに課題がある。
- ▼条件に合わせて自分の考えを書くことに課題がある。

この調査で明らかになった本市の課題（正答率が十分でない問題）については、各学校において指導の改善・充実を図り、学習内容をしっかりと定着させていきます。

「学習状況調査」の結果概要

教育委員会学校教育課 内線☎347

児童生徒質問紙調査の結果

松浦市 全国

【小学校】

- 学校に行くのは楽しいと思う
- 国語の勉強が好き
- 算数の勉強が好き
- 家で勉強をしている（1時間以上）
- 朝食を毎日食べている
- 毎日、同じくらの時刻に起きている
- 地域の行事に参加している
- ゲーム等は家の人との約束を守って使っている

【中学校】

- 学校に行くのは楽しいと思う
- 国語の勉強が好き
- 数学の勉強が好き
- 家で勉強をしている（2時間以上）
- 朝食を毎日食べている
- 毎日、同じくらの時刻に起きている
- 地域の行事に参加している
- ゲーム等は家の人との約束を守って使っている

【結果の概要】松浦っ子は…

- 小学校国語・算数、中学校国語の学習意欲は全国平均を上回る。
- 基本的な生活習慣は、全国平均を上回り、よく身に付いている。
- 地域の行事への参加については、全国平均を大きく上回り、子どもたちが地域で育っている。
- ▼中学生の家庭学習時間（通塾時間も含む）については、全国平均を大きく下回る。
- ▼中学生の家庭でのゲーム等使用ルールの順守については、全国平均を下回る。



松浦っ子の学力向上のために

学校では

- ・校内研修の充実を図り、わかる授業づくりに努めるとともに、自分の思いや考えを書いたり伝え合ったりする場面を授業で積極的に取り入れ、表現する力を育てていきます。
- ・小、中学校間での連携を充実させ、9年間の学習を積み重ねていきます。
- ・子どもたちに家庭学習の大切さを伝え、自主的・計画的に取り組むよう指導します。

家庭では

- ・「早起、早起き、朝ごはん」などの規則正しい生活リズムを継続していきましょう。
- ・家庭学習の習慣化及び読書に親む環境づくりに努めましょう。
- ・家庭での会話の時間を大切にしましょう。
- ・スマホやゲーム等は家庭でのルールを決めて正しく使うようにしましょう。

教育委員会では

- ・御厨小学校、志佐中学校を市の研究校に指定し、市全体に研究の成果を還元します。
- ・子どもたちが「できた」「わかった」といえる授業づくりにつながる研修会を企画、実施し、学校における授業改善の支援を行います。
- ・松浦市学力調査を小2～中2まで実施し、継続した学習状況の見取りと支援を行います。

「GIGA スクール構想の実現」に向けた整備状況

整備年度	整備内容	支出(予定)額
令和2年度	学習者用端末購入 充電保管庫導入 教育 ICT 環境構築 指導者用デジタル教科書(算数・数学) その他(通信機器、LTE 回線料等)	72,419,160 円 14,786,531 円 12,171,654 円 5,203,000 円 1,190,454 円 105,770,799 円
令和3年度	学習者用端末購入 GIGA スクールサポーター配置 指導者用デジタル教科書(理科、英語、社会(中のみ)) その他	41,673,445 円 7,425,000 円 6,398,000 円 3,329,260 円 58,825,705 円
令和4年度(予定)	統合型校務支援システム導入 指導者用デジタル教科書(国語、社会(小)) その他	

管理職止め

GIGAスクール構想を効果的に実施するために

～今後取り組むべきタスク～

【①教職員の研修】(学校)

《2月～3月》

- コア研修を受けた職員による、各校での伝達講習
- ・端末(Chromebook)の操作
- ・各ソフトの使い方
- ※お使いのパソコン上でも、自身のアカウントでGoogleにログインすれば、「Google for Education」が利用できます。職員同士でOJTを!



【②児童・生徒の端末活用練習】(学校)

《3月～4月》

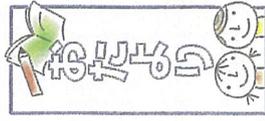
- 児童生徒に触れさせ、できることから、練習させる。
- ・利用に関する共通理解 (一人1台の意義、使用の注意点)
- ・端末(Chrome book)の操作
- ・各ソフトの使い方、操作の仕方
- ・タイピング練習(ローマ字)



【③保護者への通知依頼】(市教委)

《3月～4月》

- GIGAスクール構想に係る通知依頼
- ・学校で、一人1台端末活用が始まること。
- ・簡単な活用内容紹介
- ・G-suiteの利用に関する個人情報(氏名、学校、学年、出席番号等)登録使用許可



【④情報セキュリティポリシーの修正】(市教委)

《3月～7月》

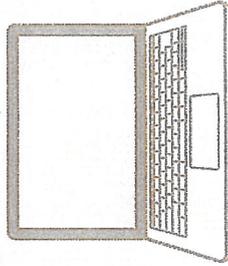
- 端末を活用するための情報セキュリティの追記修正
- ・松浦市の情報セキュリティポリシーを見直し、確定後、各校に送付する。
- ・各校の情報セキュリティポリシーについては、松浦市の情報セキュリティポリシーを基本とする。



【⑤端末利用ルール策定】(市教委・学校)

《3月～4月》

- 端末に関する利用のルールについて市教委・各校で規定する。
- ・端末の保管場所、保管方法
- ・学校における端末使用のルール
- ※端末に関する利用のルールについては、全市的規定を踏まえ、各校で規定する。



※持ち帰りについては、規定確定までは不可。

【⑥教職員の運用】(学校)

《4月～》

- 授業における端末活用、各ソフトの運用。
- ・名簿作成、登録 (3月から準備できる可能性あり)
- ・「Google classroom」のクラス開設、運用。
- ・授業において、活用できるソフトから実際に運用する。



各タスクのたまかなタイムテーブル

教職員の研修、児童生徒の操作練習

保護者へ端末導入の通知依頼

端末利用ルール策定

学校生活、授業での本格活用

端末導入(残り1/3)

情報セキュリティポリシーの追記修正

ICT活用研修会及び公開授業等

【情報セキュリティポリシーについて】

「情報セキュリティポリシー」とは、組織における情報セキュリティ対策について、総合的・体系的・具体的にまとめたものを言います。特に次の①・②を併せて使います。

- ①基本方針 ②対策基準 ③実施手順(マニュアル)

遠隔学習機能の強化に係る事業

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業

松浦市教育委員会学校教育課

休校期間中の家庭学習の実態

休校前に学校で学習プリント集の配付

各家庭で

意欲的に学習を進める子

学力格差！

無気力・・・

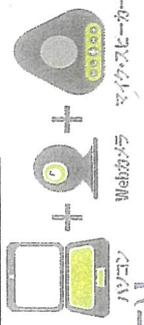
生活の乱れ

休校中は教員が直接学習支援できない！！

勉強が分からずあきらめる子

休校中の子どもの学びの保障・健康の保持に向け

- 【ICT・ネット環境の整備】
- 【遠隔学習実施時の必需品整備】
- 【家庭との連携(使用のルール共有)】
- 【GIGAスクールサポーター・ICT支援員の活用】
- 【動画の編集・配信及びICT機器の操作の職員研修】



遠隔学習機能の強化

~~~~休校時の遠隔学習を効果的に実施するために~~~

ステップ1(つながる)

【健康観察・体調管理】

メールシステム等を使った健康観察を行う。朝の体温や健康状態、一日の生活リズムなどの把握を行う。気になる児童生徒には、全体への送信ではなく、個人(家庭)向けに送信し、連絡を密にする。

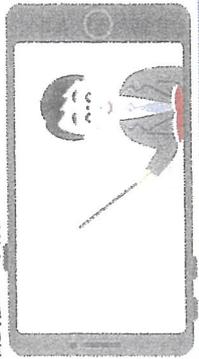
【子ども】「今日の体温は36.5度です。」
【教員】「今日も元気ですね!」



ステップ2(深める)個の学習

【授業動画の作成・配信】

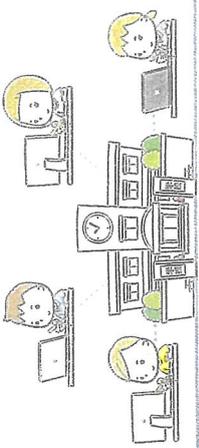
児童生徒が動画を見て学習する時間は、15分間が有効と言われる。この授業動画を教員が作成する際にデジタル教科書があれば、電子黒板を使って、スムーズに分かりやすく授業を提供できる。教員の出勤が困難な場合も、テレワークでの配信は可能である。



ステップ3(広げる)協働学習

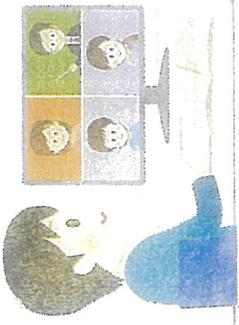
【課題の配信・返信・添削】

Classroom を使って、学習プリントや配付物を配付し、児童生徒が学習したものや家庭からの連絡を提出してもらう。個別の指導や保護者との連絡に活用する。
また、アンケート等も取れるので、現在の学習状況や健康状態を把握する。



【双方向オンライン授業】

Zoom などのビデオ会議システムを使って、教員と学級の児童とでオンラインによる授業を行う。
また、教育相談や個人面談等も行うことができ、児童生徒の心身の健康管理にも活用する。



一人1アカウントの環境整備 職員の研修

動画・課題の作成・配信

保護者へタブレット導入の説明

端末導入(全児童生徒の2/3)

端末導入(残り1/3)

2020年9月

10月

11月

2021年1月

2月

3月

4月

5月~

児童の「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善

一斉学習

- ・これまで発表できなかつた児童、自分の考えを伝えることができなかつた児童が、端末を通して、自分の考えを開示することができる。
- ・学手で行われてきた学級会での採決などは周りの拳手状況によって意見を合わせることがあったが、端末では周りの目を気にせずに、自分の結論を送信できる。
- ・文書作成ソフトで文章を書き、コメント機能等を用いて助言しあう。
- ・分析した情報を、プレゼンテーションソフトを利用して分かりやすく提示できる。

個別学習

- ・一人一人が情報を検索して、情報収集を整理する。
- ・関数や図形などの変化の様子など、アニメーション表示し、理解を深める。
- ・理科の実験や観察で、動画や画像で映した教材を共有でき、実際に目の前の画面で確認することができ、よりきめ細かな分析や振り返り学習などができている。
- ・社会の授業で、各自で収集したデータを加工して可視化したり、地図上に結合したりするなどして、深い分析につなげる。
- ・外国語の発音など、自分の知りたい単語や調べたい文など一人一人すぐに調べることができる。個に応じて聞きとれ、繰り返し練習できる。

グループ学習

- ・共同編集機能を利用して、リアルタイムに考えを共有しながら学び合う。
- ・図工や家庭科の作品鑑賞で、友達の作品を画像に収め、コメントを書いて送信し、助言しあう。また、これまでは学級単位で行われてきたこのような学習も、異学年間の助言による学習につながる。
- ・マツト運動などの体育実技を、端末のカメラを使って動画撮影し、その映像を本人が確認することで、自身の動作を客観視するとともに、グループの児童生徒みんなまで改善点を話し合う。

教員の学習指導・働き方の改善

- ・一斉指導中における個人の学習状況把握により、個別の支援、配慮の工夫が効率的に瞬時にできる。
- ・これまで紙媒体で行われてきた学習に関するアンケートなど、端末で記入して送信することで、データとして処理でき、処理時間も短縮する。
- ・評価につなげるための、一人一人の考えや学習のまとめ、評価問題等のデータを管理しやすい。